

5 運用計画

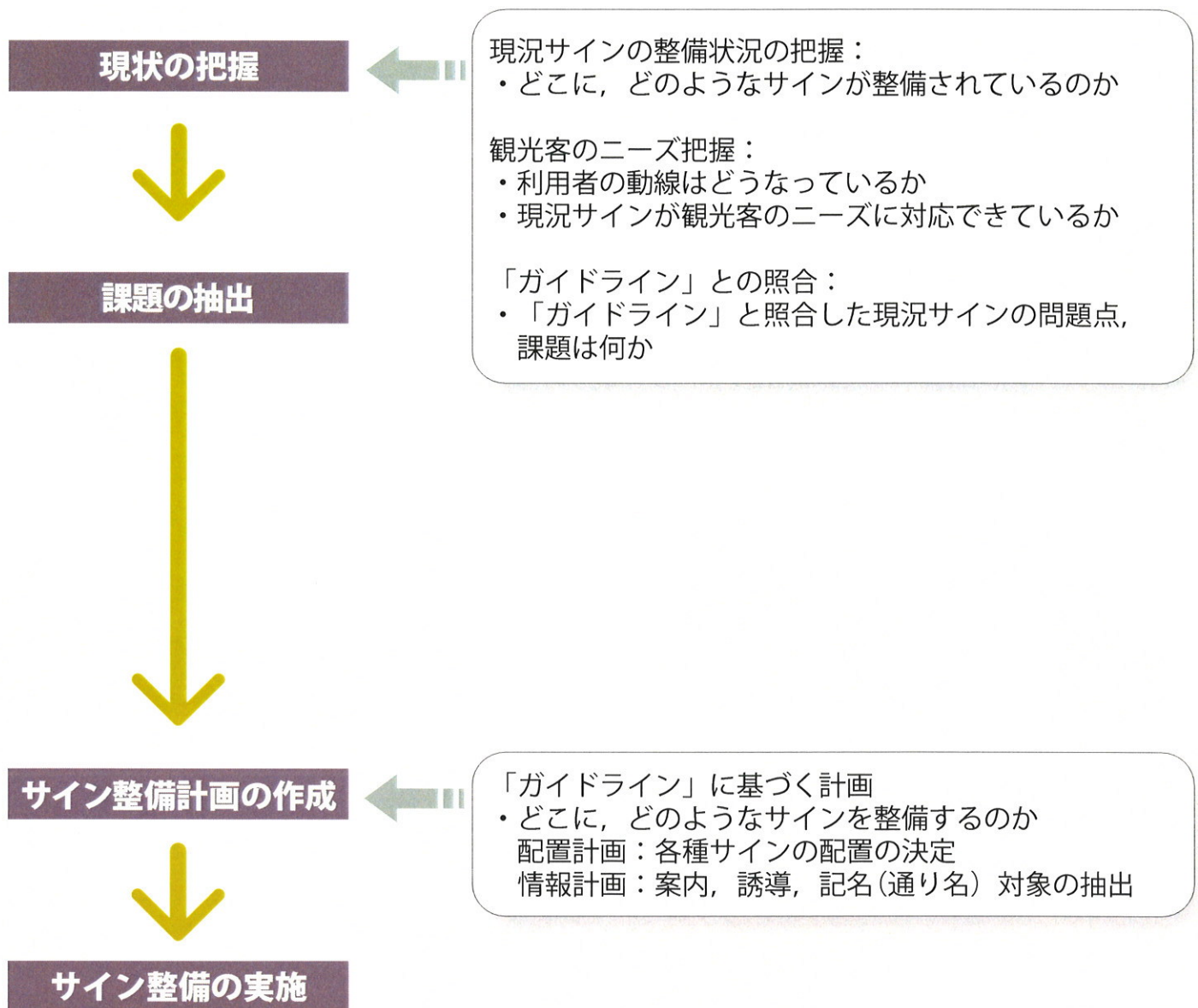
- 1 ガイドラインの運用方法
- 2 検証とフィードバック
- 3 ICTの活用
- 4 地上機の活用

ガイドラインの運用にあたって

■ガイドラインの適用範囲

本ガイドラインは、京都市をはじめ様々な設置主体が京都市内で「歩く観光客・市民」を対象とした観光案内標識(サイン)を整備する際の考え方を示したものであり、今後、本ガイドラインに基づいて整備することが望まれる。

以下に「ガイドライン」を活用した整備手順を示す。



検証とフィードバック

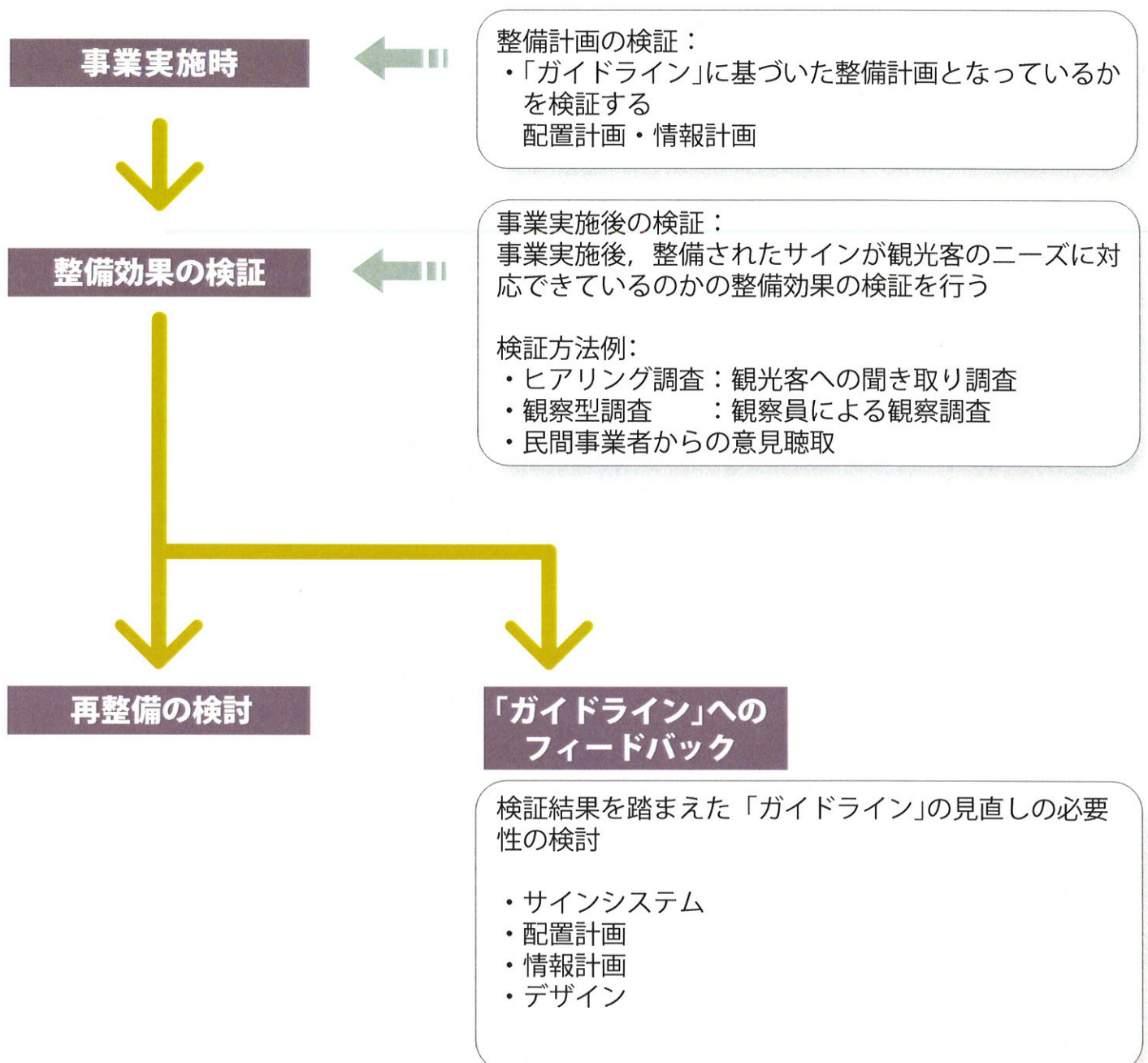
■検証

各設置主体は、事業実施時にその計画が「ガイドライン」に沿ったものとなっているかを検証するとともに、事業実施後には整備効果の検証を行うことが必要である。検証方法は各事業の目的に合わせて各設置主体が定める。

■フィードバック

整備後の検証に基づき、事業目的に沿った効果が得られなかった場合は再整備を検討し、「ガイドライン」との不整合・不都合が生じたときは、「ガイドライン」の見直しについて検討を行う。

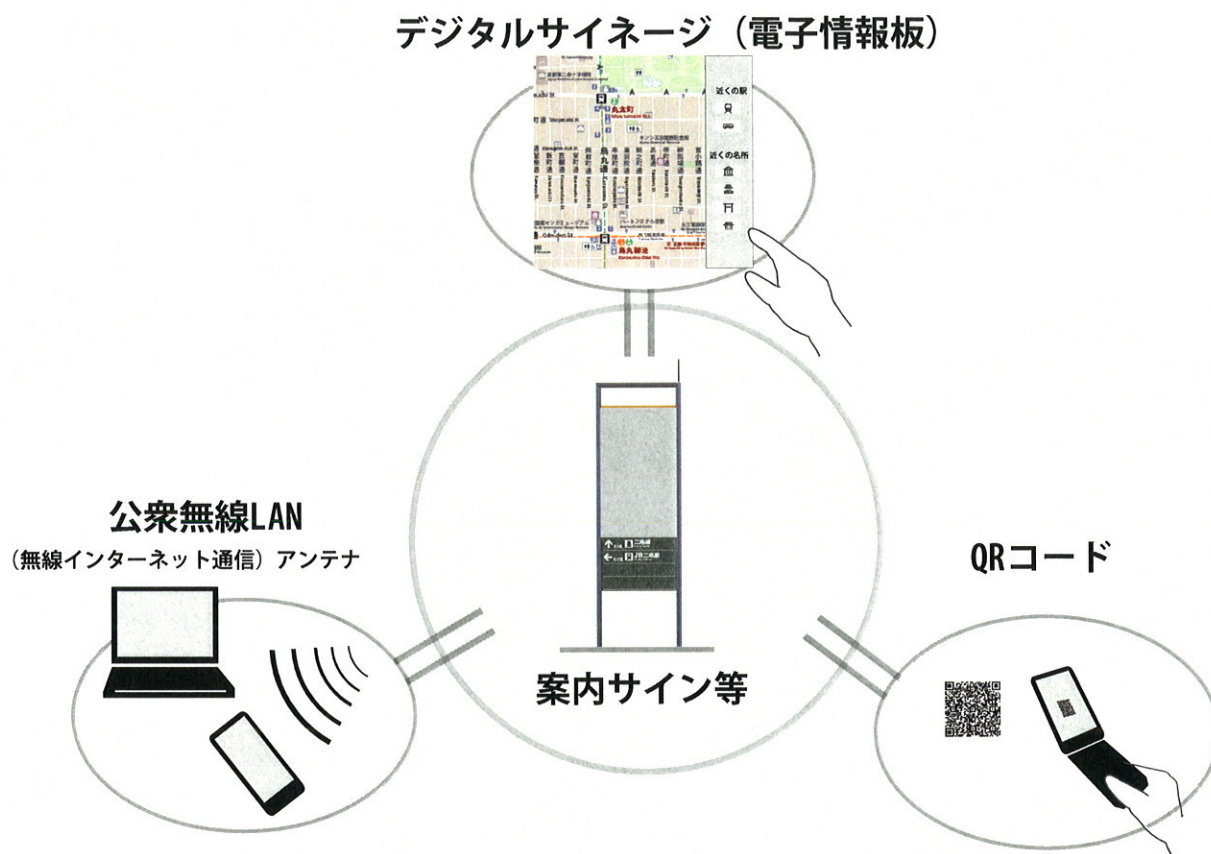
以下に検証とフィードバックの考え方を示す。



ICTの活用例

*ICT:「情報通信技術」を表す英語 (Information and Communication Technology)の略語

将来的には、^{*}ICTの導入も視野に入れて、活用方法を検討する。



●デジタルサイネージ（電子情報板）

静止画や映像などを表示することができる電子情報板。豊富な情報を多様な表現で発信できるほか、通信回線を用いて表示内容をいつでも追加・変更することができる。

また、電子情報板ごとに表示内容を設定できるため、地域性を考慮した情報を発信できる。

活用イメージ

案内サインに電子情報板を埋め込むことにより、設置地域周辺で開催されているイベントや観光名所、名産品など、観光客が知りたい多種の情報を効果的に提供する。

●公衆無線LAN（無線インターネット通信）アンテナ

インターネットに接続するための電波を発信するアンテナ

活用イメージ

案内サイン等に無線インターネット通信アンテナを埋め込むことで、設置場所周辺において、観光客がインターネット上の観光情報を素早く安価に収集できる環境を提供する。

●QRコード

小さな点を縦横に並べた正方形の図形。携帯電話等で図形から情報を読み取ることができる。バーコードの数十倍の情報量があるため、数字だけでなく、英字や漢字なども読み取ることができる。

活用イメージ

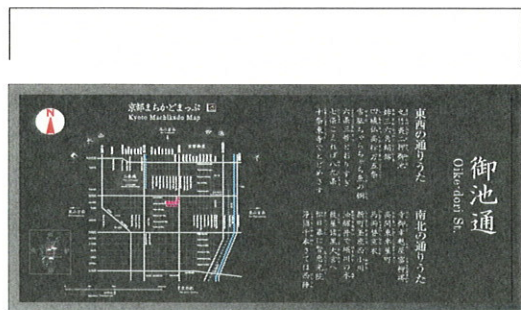
案内サイン等にホームページのアドレスを格納したQRコードを掲載することで、設置地域周辺の観光情報に簡単にアクセスする方法を提供する。

地上機の活用例

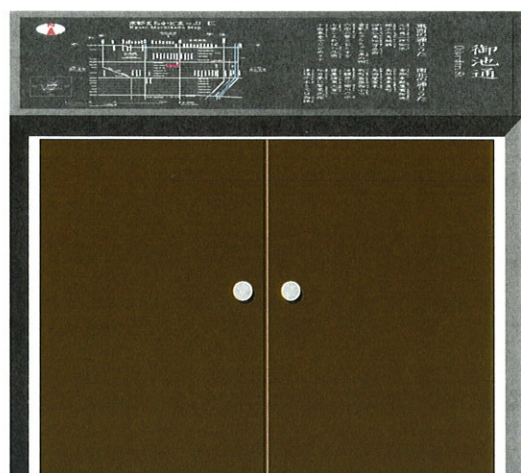
*地上機：無電柱化に伴い設置された施設

*地上機を利用して、京のわらべ歌を用いた通り名の紹介及び現在地の表示を行う。

1360



上面図



正面図

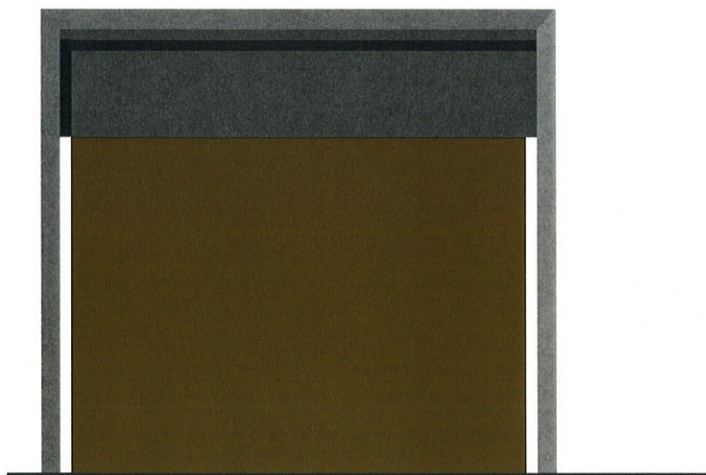
地上機 (W1200 X D500 X H900を想定)



600



側面図



裏面図

京都市における 観光案内標識アップグレード推進事業計画

京都市における観光案内標識アップグレード推進事業計画

サイン整備の実施

今後の整備事業の実施計画の概要を示す。

**モデル地域整備事業の
実施
(平成23年度)**

「ガイドライン」の策定に併せて調査対象とした
・中心市街地（四条通～御池通・新京極通～烏丸通）
・周辺観光地（岡崎・南禅寺界限）
をモデル地域として観光案内標識を整備する。
事業実施後に、整備されたサインが観光客のニーズに対応できているのか、効果を検証し、ガイドラインへのフィードバックを行う。



**京都市内への
事業展開
(平成23～27年度)**

京都市の観光案内標識のアップグレード整備にあたっては、以下の点に留意しつつ整備を推進する。

- ・観光客の利用の多いエリアを優先的に整備するなど、観光客の視点に立った整備とする。
- ・地下鉄など、公共交通機関の利用の促進に配慮した整備とする。
- ・地域の特性に配慮し、地域の意見を反映した整備とする。

整備効果の検証

各エリアの整備

ガイドラインに基づく各エリアごとの整備計画の策定



サイン整備の実施



整備の評価・検証



持続した整備